

# 大豊建設が新たな社会貢献活動

大豊建設が新たな社会貢献活動をスタートした。認定NPO法人全国「子ども食堂支援センター・むすびえ（東京都新宿区）」を通じ、食料などBCP（事業継続計画）備蓄品を東京都中央区内のみんなの食堂と、貧困家庭の子どもを支援する認定NPO法人キッズドアに寄贈。継続的な支援を目的に大豊建設本社に設置した支援自動販売機の一部売り上げを、むすびえに寄付する活動も始めた。

大豊建設はESG（環境・社会・企業統治）経営を推進するため、昨年4月に専門部署を立ち上げた。本社所在地の中央区に密着した社会貢献を模索する中、賞味期限が迫るBCP備蓄品の活用に着目。民間発の自主的な取り組みで全国約6000カ所を数える「子ども食堂」の間支援を行うむすびえを介し、こども食堂への寄付を企画した。

## 子どもの貧困対策を継続支援

などの食料約750点。むすびえの協力を得て、2月に中央区のみんなの食堂（勝どき枝豆プロジェクト）の一部を寄贈。残る備蓄品は無料学習支援を中心に食料支援なども行うキッズドアに届けた。食料などは学習支援の現場に贈られ、子どもたちから感謝の声が多数寄せられているという。

3月22日に行われた寄贈式でキッズドアの渡辺由美子理事長は「大変うれしく、この縁を大切にしたい。建設業界は子ども



BCP備蓄品の寄贈式（右から渡辺氏、福田氏、脇村氏）



リサイクルボックスを子どもの絵画でラッピング（右から福田氏、佐甲氏、久保氏）

たちの働き先としても魅力がある。職業体験なども企画していただきたい」と継続的な連携に期待を寄せた。

むすびえの脇村良二プロジェクトリーダーも「企業と団体のつながりが継続し、活動の輪が広がってほしい」と期待。大豊建設の福田浩二執行役員企画本部コーポレートコミュニケーション部長は「建設会社としても勉強になった。今後も社会貢献活動を続け、社内に発信していく」と語った。

大豊建設は継続的な支援活動を3月に始めた。本社の地下1階と地上2階に支援自動販売機を設置し、売り上げの一部が設

置会社のコカ・コーラボトラーズジャパンを通じてむすびえに寄付される仕組みを整えた。自動販売機横のリサイクルボックスには、むすびえが主催した第1回全国「子ども食堂絵画展の「ごちそうさま賞」受賞作品をラッピングしている。

「子ども食堂を発信できる場ができてうれしい」と感謝の言葉を述べるのは、むすびえの佐甲かほ子プロジェクトリーダー。ラッピングを手掛けたコカ・コーラボトラーズジャパンの久保健一地区統括部長は「自動販売機の大きな付加価値になる。社会貢献に有意義な活動だ」と強調する。

プロジェクト全体を指揮した大豊建設の中西末樹ESG推進課課長代理は「支援自動販売機は支店や工事現場にも順次拡大する。支援の輪を広げ、子どもたちの役に立てればうれしい」と話す。「あなたの1杯が子どもたちの未来につながる」。プロジェクトに込めた思いを社内でも共有しこども食堂の活動を盛り上げていく。

